

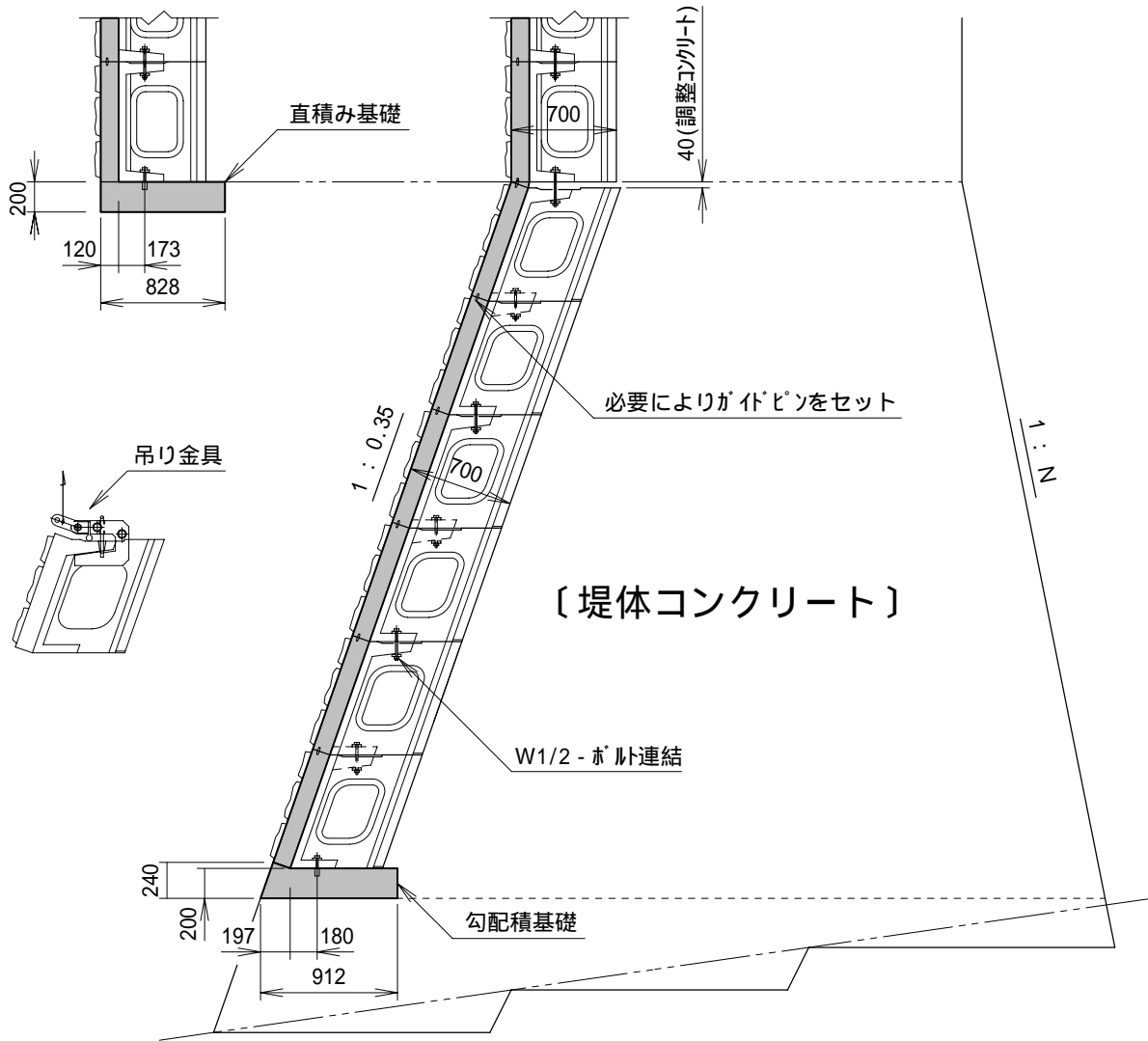
自立式残存型枠ブロック

Jフォーム

施工マニュアル

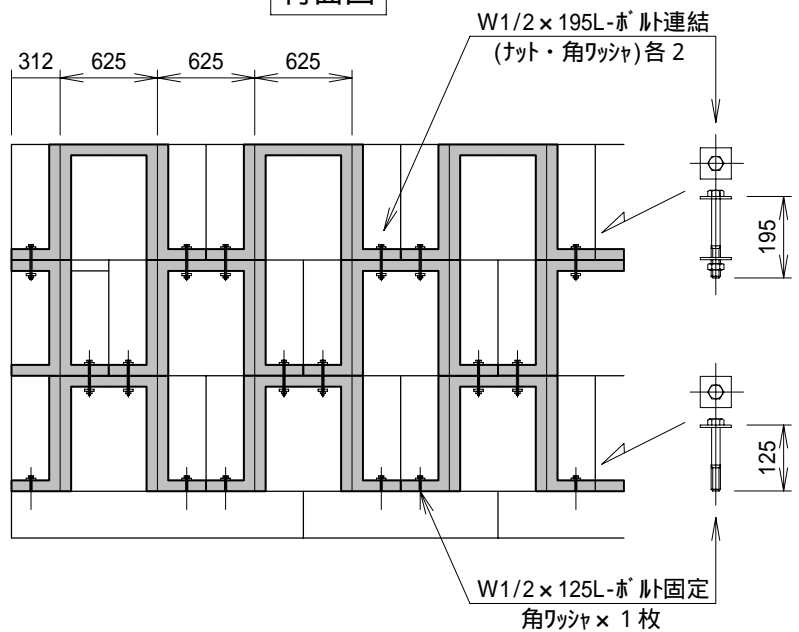
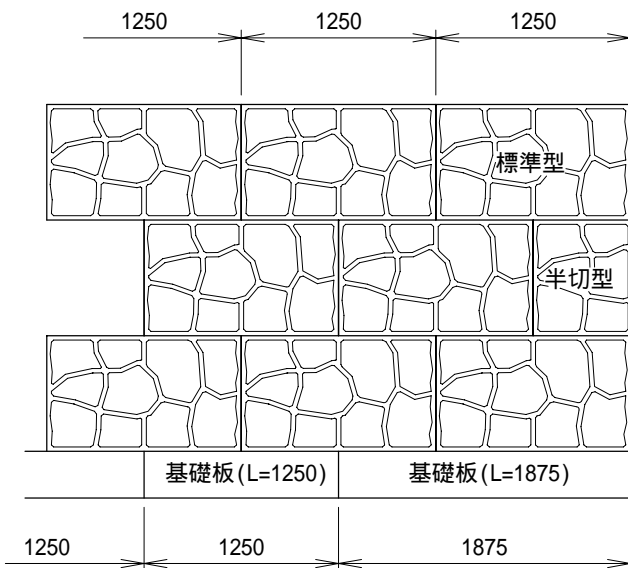


株式会社 センコン

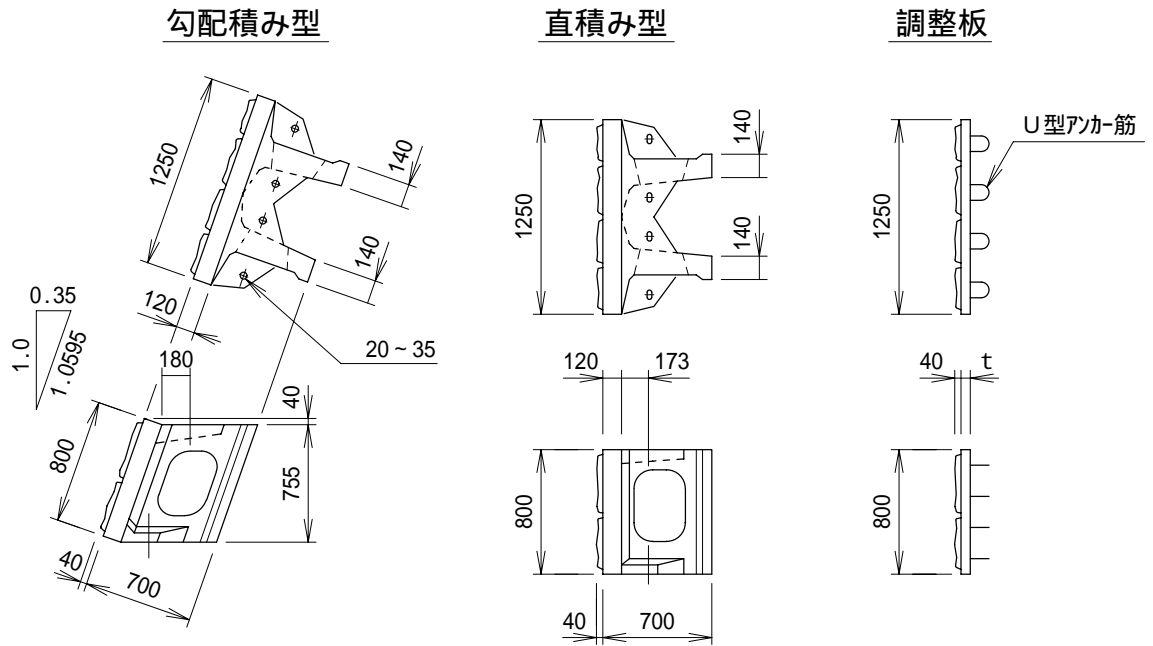


正面図

背面図



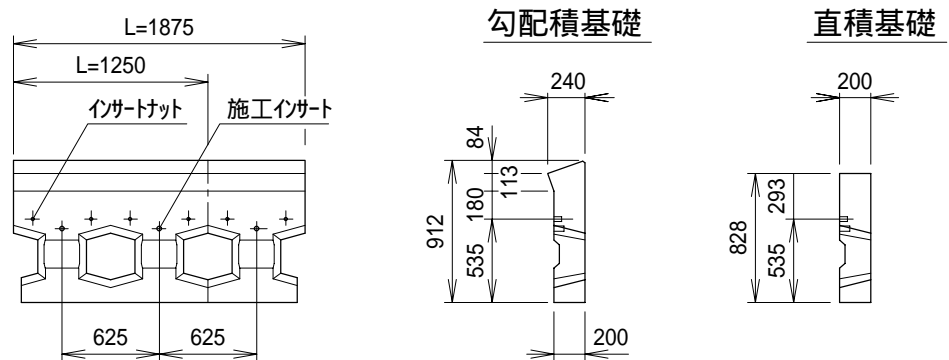
注：勾配換え部は、ボルトが長くなります。
(L = 210)



残存型枠ブロック（Jフォーム）：規格表

呼び名	幅 (mm)	法長 (mm)	控長 (mm)	1 m ² 当たり 控除生工量	参考重量 (kg)			
					擬岩	滑面	桂	玉石
勾配積タイプ	1250	800	700	0.24 m ³	580		610	580
直積みタイプ	1250	800	700	0.24 m ³	580		610	580
調整板 t=60	1250	800	60	0.06 m ³	200	-	-	-
調整板 t=100	1250	800	100	0.10 m ³	280		310	340

3 . Jフォーム基礎：形状・寸法



基礎板（Jフォーム用）：規格表

呼び名		幅 (mm)	高さ (mm)	製品長 (mm)	1本当たり 控除生工量	参考重量 (kg)	備考
勾配積	標準部	912	240/200	1250(1248)	0.18 m ³	420	
	角部			1875(1872)	0.27 m ³	630	
直積	標準部	828	200	1250(1248)	0.17 m ³	390	
	角部			1875(1248)	0.25 m ³	580	

4 - 1 基礎ブロック使用の場合（選択）

- a) 基礎ブロックの割り付け図を確認する。
- b) 基礎ブロック施工金具を確認する。

4 - 2 Jフォームの施工前

- a) Jフォーム専用吊り金具の確認。
- b) 吊りワイヤーの確認をする。
- c) 連結ボルトの確認をする。（製品に附属）
- d) サポート鉄筋、アンカー鉄筋の準備をする。



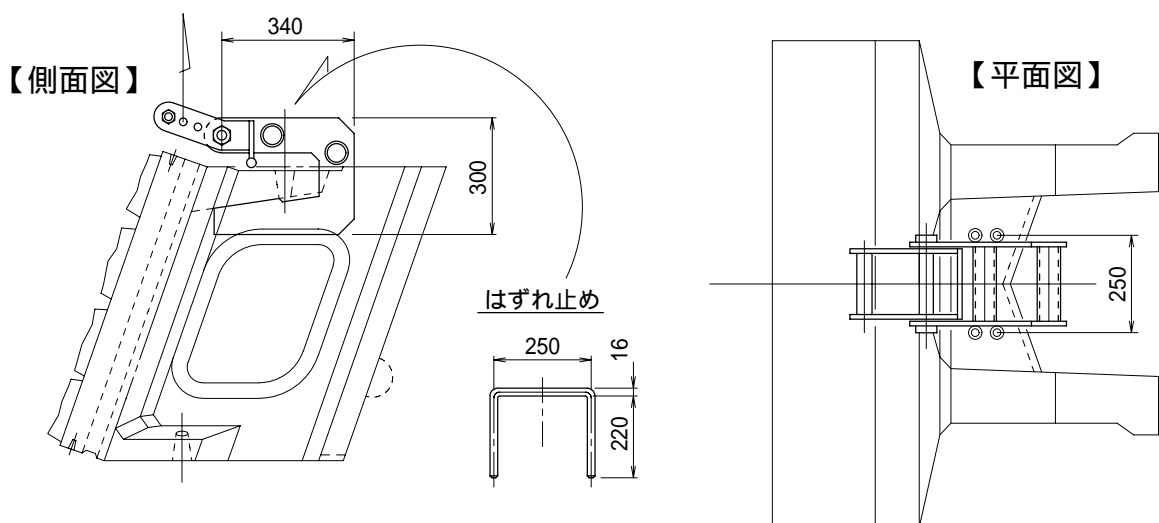
5 . 施工手順

5 - 1 基礎地盤の処理

- a) 基礎地盤がゆるい場合は、置き換えコンクリートを打設する。
- b) 基礎地盤が岩盤の場合は、均しコンクリートを打設する。
- c) ブロック割り付け図と照査し、コンクリートの仕上高さを決める。
- d) コンクリート打設時に最下段アンカー鉄筋を配置する。（5-4：1段目施工参照）

5 - 2 Jフォームの吊り上げ

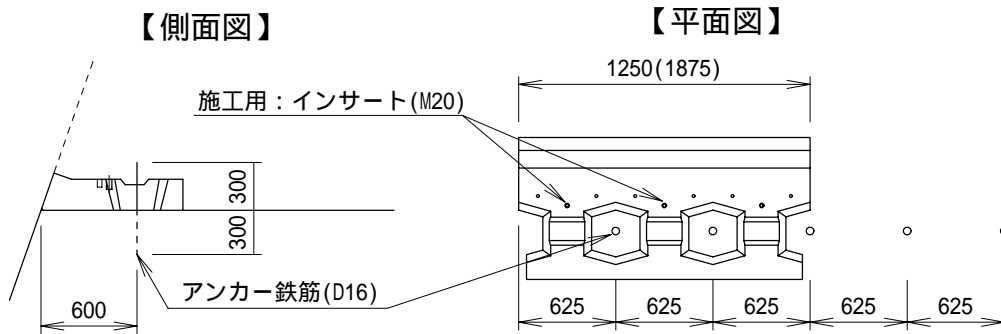
- a) 吊りワイヤー（ 12mm×1m ）2本、シャックル（12mm以上）2個を専用吊り具にセットする。
- b) 図のように専用吊り具をはめ込み、必ず「はずれ止め」をセットする。



注意点

- 。 試し吊りをして、水平に吊り上げられるようにワイヤー孔位置を決める。
- 。 吊り荷の下には、絶対に入らないように注意する。
- 。 専用吊り具は、勾配積みタイプ・直積みタイプ・及び半切タイプ兼用です。

- a) 基礎ブロックの割り付け図に準じて、墨出しを行う。
- b) 基礎ブロック中空部にアンカー鉄筋（滑動防止鉄筋）を立て込む。（P = 625）



5 - 4 Jフォーム1段目の据え付け

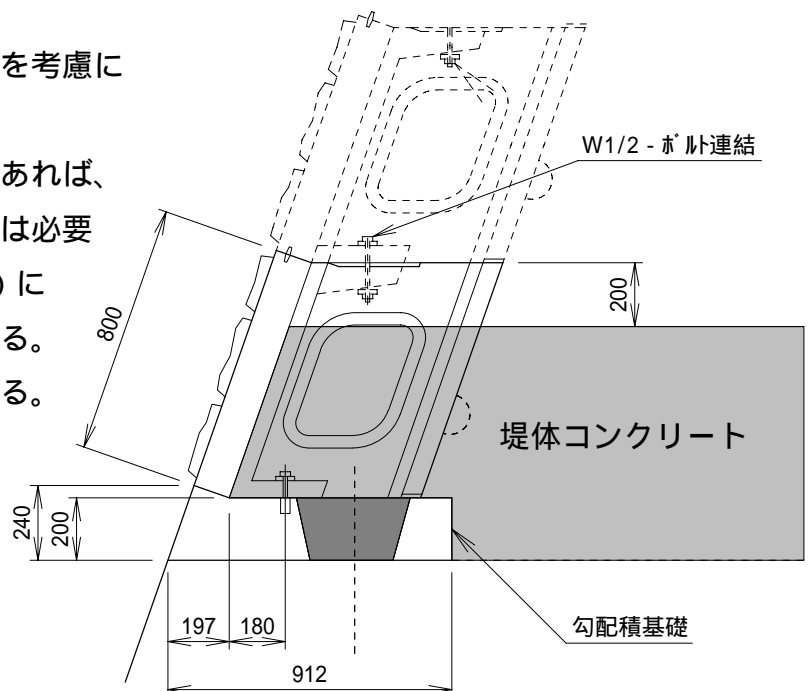
- a) 吊り上げたJフォームを基礎ブロック上にセットする。
- b) 勾配を調節した後、基礎ブロックとボルト連結する。（ボルト長 = 125）

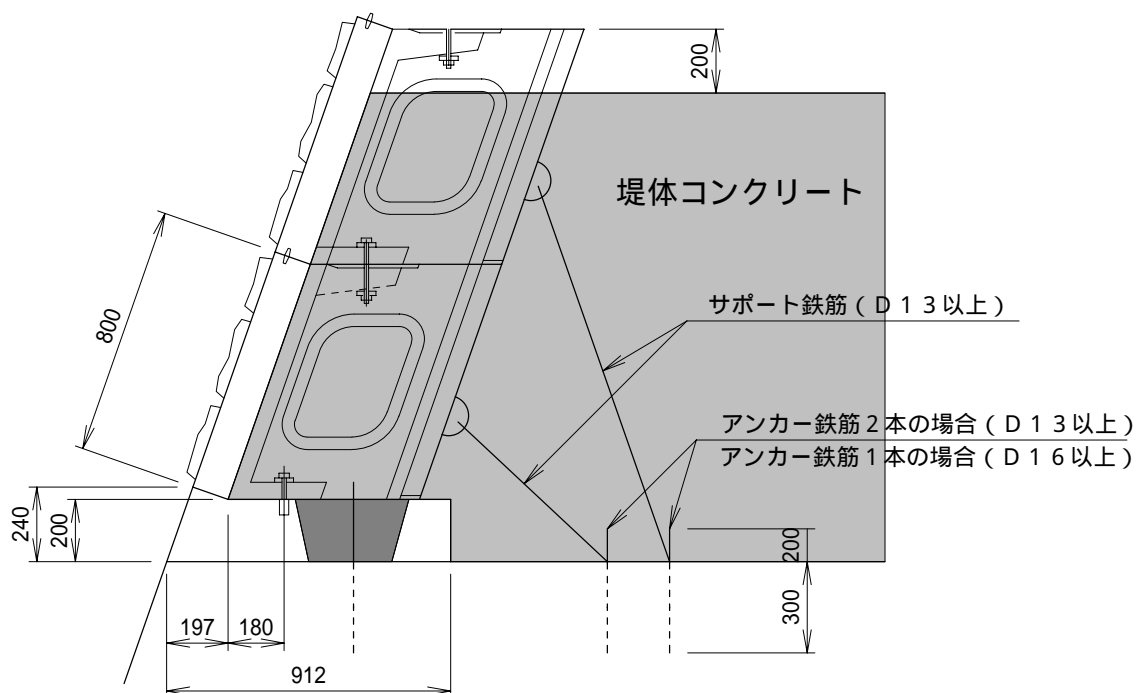


5 - 5 1段目のコンクリート打設

- a) 必ず、次の段のボルト連結を考慮に入れて打設する。
- b) リフト高さがH=0.75程度であれば、アンカー及びサポート鉄筋は必要ないがH=1.5m程度（2段）になると次項に準じて設置する。
- c) 一段目は特に慎重に施工する。

高さ・堤体幅
勾配・滑動





- a) リフト高さが J フォーム 2 段分の時は、上図の如く「1 m²に 2 本以上の鉄筋」を配置すること。
- b) アンカー鉄筋を 1 本にする場合は D 16 以上 (L=500) を使用すること。
- c) 勾配積み・直積み両タイプ共に、自立式となっており空積みでも 2 段までは通常転倒の危険はありません。しかしながら高所作業でもあり、突風や予期せぬ地震を考慮して、J フォームを積み重ねる毎にボルト連結を施すこと。

5 - 7 3 段目以後の施工

- a) リフト高さに留意して、5-5、5-6の工程を繰り返して行く。もちろん、施工の伸び堤体幅・勾配への確認は怠らないこと。



6 - 1 勾配変化点の施工

- a) Jフォーム一般図に示すように、勾配変化点では調整コンクリート及びコンクリート製ライナーにて4cm程度の調整を行う。
- b) このとき、連結用のボルトは通常より長いものを使用する。(ボルト長=210)

6 - 2 調整用パネルの施工

- a) Jフォーム調整用パネルの背面には、施工用固定鉄線が数多く配置されている。これは、基本的にどの方向にカットしてもアンカーの役目が果たせるように考えられている。
- b) 調整用パネルは自立しないのでサポート鉄筋のセット時でも注意が必要となる。
- c) 同一形状で多くの枚数が必要になる場合は、カットしない対策をメーカーと協議する。

6 - 3 銘板はめ込み用製品について

- a) 銘板をはめ込む位置を確認してメーカーと対応製品を協議する。



7 安全について

7 - 1 吊り上げに関して

常にワイヤーの状態を点検し、キンク・素線の断線などに注意を払う。

シャックルも断面の減少のあるものは使わない。

専用吊り具の形状の変化にも注意を払い、変化が見られたらメーカーと協議する。

7 - 2 落下防止について

Jフォームに安全柵を設ける場合。

